

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	人間心理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1学年		学期及び曜時限	前期	教室名	202,203
担 当 教 員	門嶋清美	実務経験と その関連資格	臨床心理士・公認心理師・看護師			
《科目目標》						
看護の対象である人間を統合的に捉える視点を理解する。 自分自身の傾向を理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
【評価方法】グループワークへの参加状況30%、終講試験70% 【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
なし						
《授業外における学習方法》						
毎授業終了後次回授業に活かすために所定の用紙に授業評価を書いてもらいます。						
《履修に当たっての留意点》						
本科目では看護の対象である人間理解の基礎を具体的に理解する。アクティビティーやディスカッションを取り入れ、双方向型授業を重視する。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	オリエンテーション			
		各コマに おける 授業予定	自己紹介、シラバスの説明にて授業の動機づけを行う			
第2回	講義 形式	授業を通じての 到達目標	心理学の歴史を理解する	パソコン		
		各コマに おける 授業予定	心理学の成り立ちを話し、身体と心のつながりについてGWを行う			
第3回	講義 形式	授業を通じての 到達目標	認知とは何かを理解する(総論)	パソコン		
		各コマに おける 授業予定	体験授業を取り入れて、人間の情報処理過程を行う「脳」の機能について知る			
第4回	講義 形式	授業を通じての 到達目標	認知とは何かを理解する(各論)	パソコン		
		各コマに おける 授業予定	人間の情報処理過程の入力部分を担う、「知覚」について理解する			
第5回	講義 形式	授業を通じての 到達目標	認知とは何かを理解する(各論)	パソコン		
		各コマに おける 授業予定	人間の情報処理過程の高次処理を担う「記憶」について理解する			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	学習から人間を理解しよう	パソコン	
		各コマにおける授業予定	前回の授業の記憶についての体験授業を行った後に学習理論について講義を行う。		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	発達段階から人間を理解しよう(乳児～思春期・青年期)	パソコン	
		各コマにおける授業予定	GW形式で各発達段階の特徴を講義する		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	発達段階から 人間を理解しよう(成人期～老年期)	パソコン	
		各コマにおける授業予定	GW形式で各発達段階の特徴を講義する		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	パーソナリティから人間を理解しよう	パソコン	
		各コマにおける授業予定	体験授業を取り入れて、パーソナリティを理解するとともに自己への関心を深める		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会から人間を理解しよう(集団)	パソコン	
		各コマにおける授業予定	講義を通して集団の特徴を理解する		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会から人間を理解しよう(対人認知)	パソコン	
		各コマにおける授業予定	体験授業を取り入れ、人間の対人認知について理解する		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	ストレスマネジメントについて理解する	パソコン	
		各コマにおける授業予定	ストレス理論を講義し、ストレス対処法を身につける		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	アンガーマネジメントについて理解しよう	パソコン	
		各コマにおける授業予定	アンガーマネジメントのメカニズムを理解し、感情のコントロールの方法を学ぶ		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ヒューマンエラーについて理解しよう		
		各コマにおける授業予定	ヒューマンエラーの要因、対処法を講義する		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	まとめ・終講試験		
		各コマにおける授業予定	まとめ・終講試験		